

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>情操教育の拠点として重要な役割を果たす児童館は、子供にとって極めて重要な施設と考える。</p> <p>市内の各児童館ともに築30年以上経過し、老朽化が進んでおり、修繕等に対応してきているものの、建て替え等の必要があり、その際には「和歌山市交響施設マネジメント基本方針」にあるように、近隣公共施設との統廃合を行う複合化を進めていく。</p>
見直し・改善内容	<p>杭の瀬児童・地区福祉センターをはじめ、近隣公共施設との複合化を計画的に進めていき、児童館の役割も含め、地域の拠点としての役割を果たす。</p>